

きることであるとの判断で同委員会に一任することが承認された。

11. 大会期間中の研究会について（講演企画）

次回の予稿集募集に際し、大会期間中の研究会の募集の告示を出して、会場、時間等の調整を行う（ただし、当面は東京における大会を対象とする。）という同委員会の方針が承認された。

12. 会員の新規加入の承認について

個人会員西 龍治ほか30名の新規加入が承認された。

13. 技報堂「気象の話」について

教育と普及委員会から同委員会は対応できない旨報告された。したがって学会としてこの出版計画には関与しないこととなった。

14. 会員の増加をはかることについて（総合計画）

浅井総合計画担当理事より問題提起がなされ、約1時間にわたって意見の交換がおこなわれた。

会員へのお知らせ

日本学術会議会長より文部省科学研究費補助金について、理事長あて下記のとおり日本学術会議各部長各研究

連絡委員会委員長あて通知した旨連絡がありました（昭和60年9月）のでお知らせします。

記

文部省科学研究費補助金の改善に伴う特定研究の廃止及び重点領域研究の設置について

このたび、文部省から本会議あて「科学研究費補助金における重点領域の取扱いの改善について」連絡がありました。

これによると、文部省の学術審議会会長から文部大臣あて建議が出され、この建議に基づき文部省は、昭和62年度から従前の特別研究、特定研究を廃止し、これらに代えて新たな研究種目「重点領域研究」を設置することとなりますので、本会議で行っていた従来の特定研究領域の受付け及び文部省への推薦作業は、行わないことになりました。

については、新たな研究種目「重点領域研究」に関する本会議の対応について、昭和62年度に向けての事務日程等を踏まえて、関係者の御意見を拝聴するとともに、従来の特定研究領域の設定における本会議と文部省との関係等を検討しました結果、当面重点領域研究の領域設定について、本会議としては申請者からの受付け及び文部省への推薦作業は、行わないことといたしました。

このため、重点領域研究の領域設定の申請を希望する研究者グループは、直接申請書類を文部省へ提出してい

ただくことになりましたので、その旨関係研究者グループに御連絡くださいますようお願いいたします。

なお、申請の手続は、文部省「科学研究費補助金「重点領域研究」一昭和62年度発足重点領域公募要領一」に掲載されます。

おって、第13期における常置委員会の活動体制が整った際、研究費に係わる問題を扱う委員会において広い視野と先見的展望の下に、我が国の学術研究の調和ある発展を期するために、科学研究費等における日本学術会議の係わり方について十分御検討願うとともに、各研究連絡委員会においても重点領域研究の申請等に関し、どのように係わって行くべきかについて御検討願いたいと思っています。

（備考）本件に関するお問い合わせは、下記あてお願いします。

〒106 東京都港区六本木 7-22-34

日本学術会議事務局学術課：古屋謙事専門職（事務担当）

TEL. 03 (403) 6291 内線 245

編集後記：11月“霜月”めっきり日が短くなりました。新酒が仕込まれて、酒まんじゅうが季節のお菓子です。編集部では新年号から年に1回はカラー頁を入れ、カラーでなければ表現できない気象現象や関連事項をお伝えする予定です。また12月で「宇宙から見た気象」は一応終了し、4月からは毎月ひまわりによる毎日の全球写真をお届けする予定で準備を進めています。御期待下さい。中国訪日団一行は、日本各地を巡り、研究機関訪問と講演のいそがしい旅を終え、無事帰国されました。その状況は写真、講演要旨などをそえて、できるだけ早くお知らせします。ソ連の衛星ロケットの大気圏突入で夜空

の人工流星を観察された会員も多い事でしょう。米ソの衛星競争で現在2,000個以上の物体が地球のまわりをまわっており、1日1個平均で大気圏に突入しているのだそうです。身近の珍しい気象現象などをお知らせ下さい。

国際学術連合は核戦争の気候影響に関する報告をまとめ発表しました。いわゆる核の冬の到来と、できるだけ少ない被害で核戦争をやろうという核の窓とが同床異夢で共存している世の中で、気象学者の責任は重大です。

さて、毎月最後の週の月曜が編集委員会定例日となっています。投稿論文がそれまでに届くと、1カ月は早く処理されることとなります。（長）